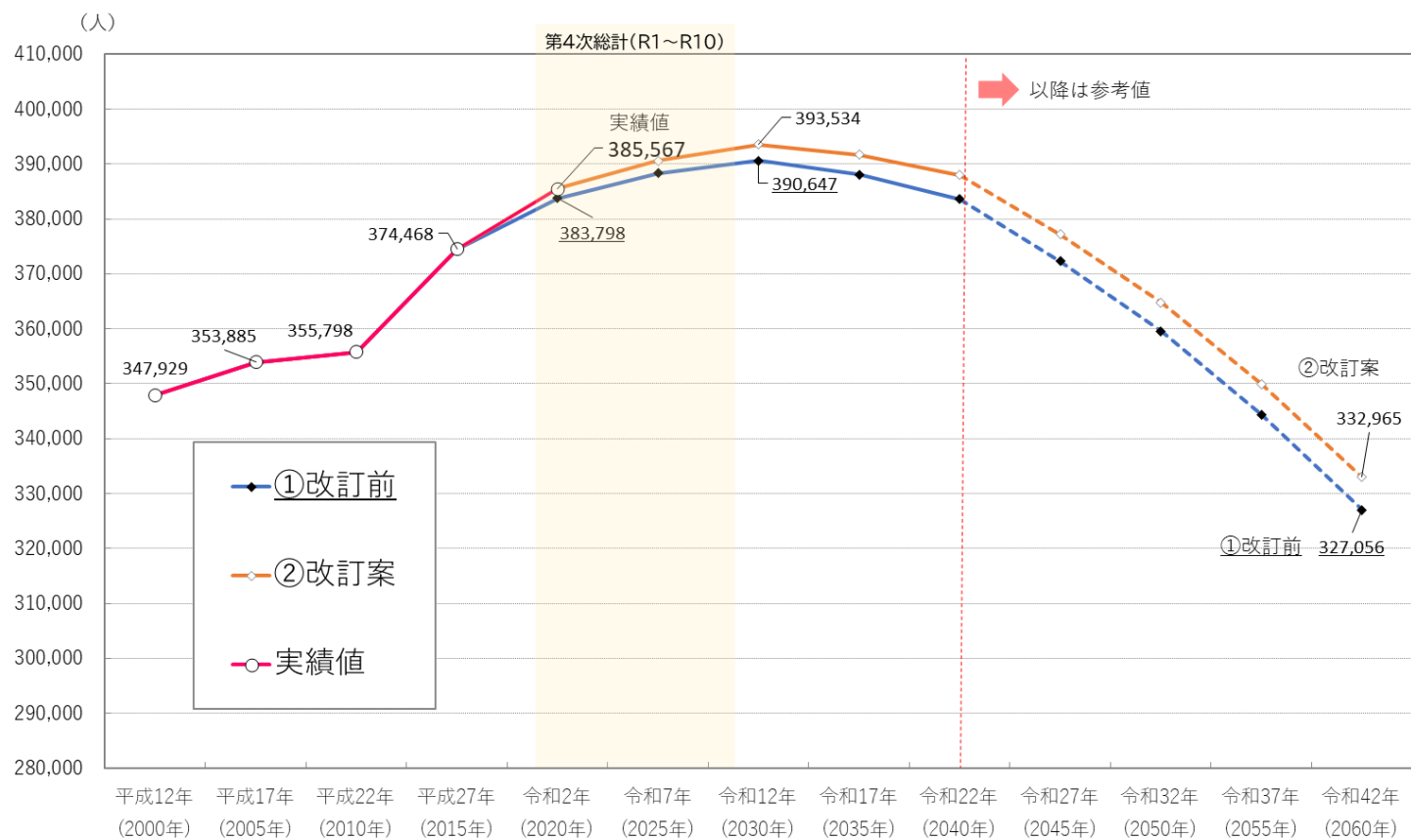


第4次総合計画改訂版 人口推計案
第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン案

1 第4次総合計画 人口推計 ①改訂前 ・ ②改訂案



(人)

		2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
①改訂前	総人口	383,798	388,307	390,647	388,037	383,637	372,292	359,537	344,384	327,056
	0~14歳	51,734	49,585	46,199	43,104	41,482	39,713	37,693	35,288	32,327
	15~64歳	239,167	242,806	242,895	234,618	221,555	208,388	196,563	186,835	176,393
	65歳以上	92,897	95,916	101,553	110,315	120,600	124,190	125,282	122,262	118,335
	(75歳以上)	48,182	58,444	61,347	61,049	63,863	69,562	77,365	79,122	77,128
②改訂案	総人口	385,567	390,600	393,534	391,680	387,975	377,155	364,796	349,986	332,965
	0~14歳	52,107	50,606	47,651	44,292	42,594	40,737	38,494	35,964	32,941
	15~64歳	241,527	245,195	245,697	238,613	225,997	212,989	201,056	190,344	179,952
	65歳以上	91,933	94,799	100,186	108,775	119,383	123,430	125,246	123,679	120,071
	(75歳以上)	47,887	57,825	60,609	60,275	62,964	68,577	76,682	78,848	77,458

1 第4次総合計画 人口推計 推計方法

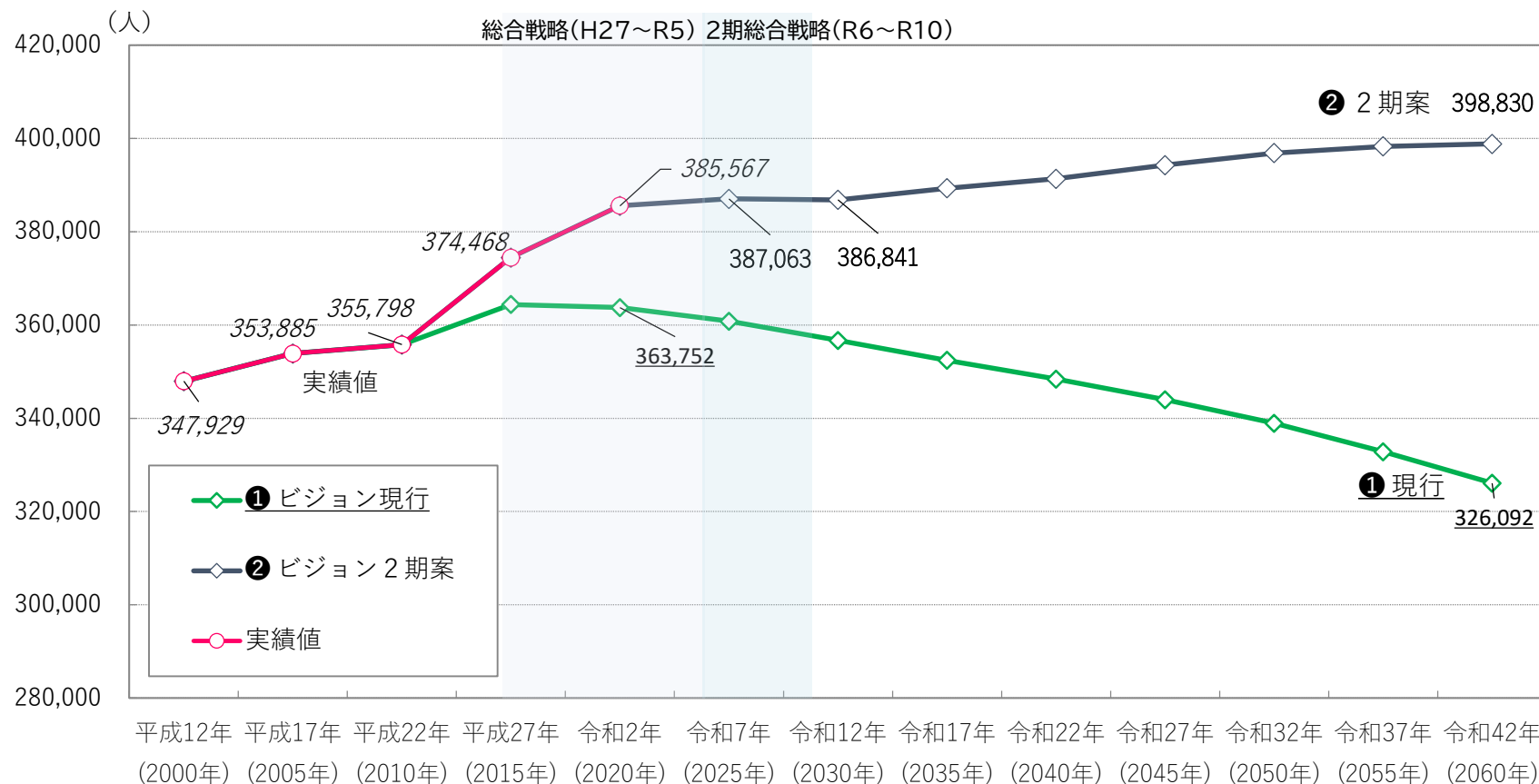
①改訂前：2020年から2040年までの5年ごとの人口を推計（2045年以降は参考値）

項目	方法等
推計フレーム	コーホート要因法
【実績値】 ベースとなる人口	平成27年（2015年）国勢調査の総人口及び男女別・年齢5歳階級別人口
【仮定値】自然増減	<p>社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」における吹田市の比率を使用</p> <p>(1) 出生 吹田市の子ども女性比（0-4歳人口と15-49歳女性人口の比）：0.18前後 →合計特殊出生率（1人の女性一生の間に生む子どもの数）に換算：1.3前後</p> <p>(2) 死亡（性別・年齢5歳階級別の生残率から推計）</p> <p>【自然増減による人口増減】 2020年→2025年：-4,514人 2025年→2030年：-6,765人</p> <p>純移動率（1,000人あたりの移出入の割合）を使用</p> <p>(1) 市域全体：転入超過傾向が継続（ただし規模は縮小）を想定 2010年～2015年の国勢調査における純移動率（千里ニュータウン以外）がベース 2015年～2020年：その純移動率から半減 2020年以降：その純移動率を維持</p>
【仮定値】社会増減	<p>(2) 千里ニュータウン：H18～H27の10年間の開発動向と今後の計画、残された開発余地等から想定</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅開発がなされた際の1戸当たりの人口増加数を3.1人と想定（過去実績） 開発余地のうち、過去の実績から面積当たりの戸数の平均値を算出し、新規開発戸数を想定（既存住宅の建て替え相当分の戸数は除く）→今後20年で3,152戸の開発見込み 想定増加人口は3,152戸×3.1=9,771人 その人数を2015～2030年の間を3期に分けて増加人数を割り振り <p>【社会増減による人口増減】 2020年→2025年：9,023人 2025年→2030年：9,105人</p>

②改訂案：2025年から2040年までの5年ごとの人口を推計（2045年以降は参考値）

①と同じ推計方法。ただし、令和2年（2020年）の人口を推計値から実績値に置き換え

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン ①現行 ・ ②2期案



		2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
① 現行	総人口	364,385	363,752	360,808	356,692	352,413	348,416	343,980	338,940	332,811	326,092
	0~14歳	49,193	47,530	47,183	47,308	48,849	51,261	52,468	52,145	50,813	50,324
	15~64歳	228,359	223,270	218,963	210,948	198,701	185,409	178,828	175,927	175,554	174,921
	65歳以上	86,833	92,952	94,661	98,436	104,862	111,746	112,684	110,869	106,445	100,847
	(75歳以上)	39,996	48,518	58,190	60,248	59,070	60,796	66,078	72,151	71,697	67,813
② 2期案	総人口	374,468	385,567	387,063	386,841	389,332	391,358	394,274	396,870	398,293	398,830
	0~14歳	51,344	52,107	53,247	52,247	49,916	49,321	50,285	51,204	51,703	52,479
	15~64歳	236,854	241,527	239,956	236,314	234,744	229,865	227,629	227,336	229,531	232,023
	65歳以上	86,270	91,933	93,860	98,280	104,671	112,172	116,360	118,329	117,058	114,328
	(75歳以上)	39,556	47,887	57,266	59,383	58,479	60,532	66,145	73,176	75,206	74,177

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン 推計方法

① 現 行：2015年から2060年までの5年ごとの人口ビジョンを策定

項目	方法等
推計フレーム	コーホート要因法
【実績値】 ベースとなる人口	平成22年（2010年）国勢調査の総人口及び男女別・年齢5歳階級別人口
【仮定値】自然増減	<p>(1) 出生 合計特殊出生率 2030年に1.8、2040年に2.07と仮定</p> <p>(2) 死亡（性別・年齢5歳階級別の生残率から推計） 社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」における吹田市の比率を使用</p>
【仮定値】社会増減	<p>純移動率（1,000人あたりの移出入の割合）を使用</p> <p>(1) 2005年～2010年の国勢調査における純移動率がベース 2015年～2020年：その純移動率から半減 2020年以降：その純移動率を維持</p> <p>(2) ただし、学生をはじめとする若者（20～24歳）の転出超過を抑制し、20歳代後半から40歳代前半の世代の転入超過をさらに促進したとして純移動率を仮定</p>

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン 推計方法

② 2期案：2025年から2060年までの5年ごとの人口ビジョンを策定

項目	方法等
推計フレーム	コーホート要因法
【実績値】 ベースとなる人口	令和2年（2020年）国勢調査の総人口及び男女別・年齢5歳階級別人口
【仮定値】自然増減	<p>社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」における吹田市の比率を使用</p> <p>（1）出生 吹田市の子ども女性比（0-4歳人口と15-49歳女性人口の比）：0.2前後 →合計特殊出生率（1人の女性一生の間に生む子どもの数）に換算：1.47前後</p> <p>（2）死亡（性別・年齢5歳階級別の生残率から推計）</p> <p>【自然増減による人口増減】 2020年→2025年：-2,119人 2025年→2030年：-4,334人</p> <p>純移動率（1,000人あたりの移出入の割合）を使用</p> <p>（1）市域全体： 2015年～2020年の国勢調査における純移動率（千里ニュータウン以外）が維持すると仮定</p> <p>（2）千里ニュータウン： H18～H27の10年間の開発動向と今後の計画、残された開発余地等から2015年以降の増加人数を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅開発がなされた際の1戸当たりの人口増加数を3.1人と想定（過去実績） ・開発余地のうち、過去の実績から面積当たりの戸数の平均値を算出し、新規開発戸数を想定（既存住宅の建て替え相当分の戸数は除く）→今後20年で3,152戸の開発見込み ・想定増加人口は3,152戸×3.1=9,771人 ・その人数を2015～2030年の間を3期に分けて、該当分の増加人数を割り振り <p>【社会増減による人口増減】 2020年→2025年：3,614人 2025年→2030年：4,113人</p>
【仮定値】社会増減	

3 4次総合計画改訂版 人口推計案

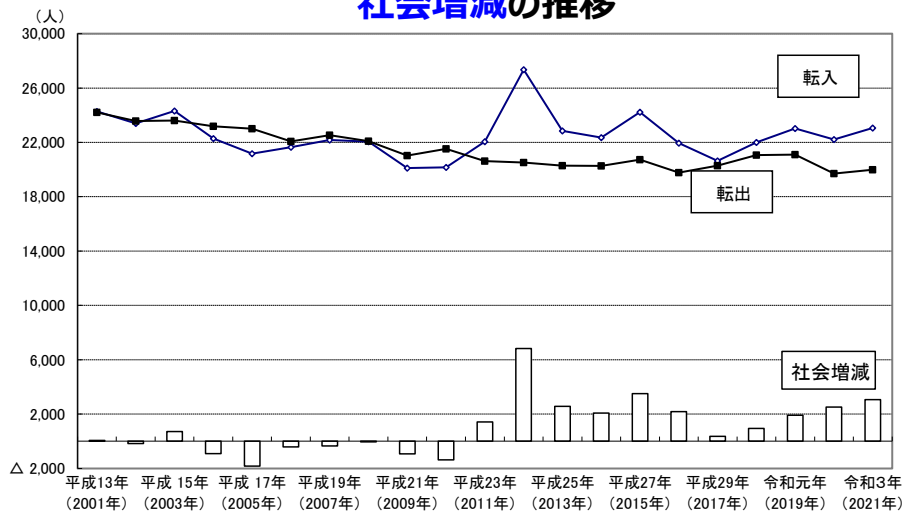
・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン案 比較

【国勢調査の実績値】網かけ：推計上のベースとしている実績値【推計値】ベースの実績値（階層別：男女×5歳刻み） × 階層別の仮定値 端数処理のため計算の合わない箇所あり（万人）

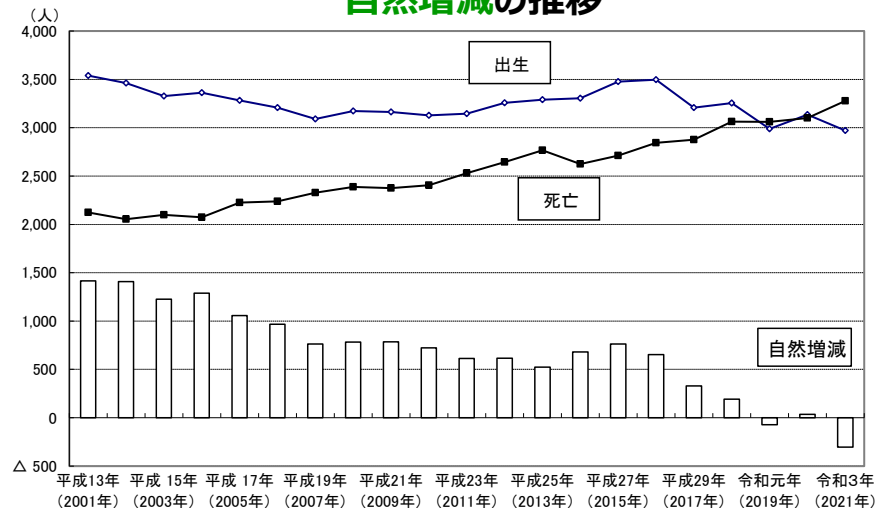
種別	人口区分	[A] H22 (2010)	[B] H27 (2015)	[C] R2 (2020)	[D] R22 (2040)	[E] 増減見込み 各[D] - [B]実績	【仮定値1】 自然増減（出生・死亡）	【仮定値2】 社会増減（転入・転出）	
人口推計 ~R22 (2040)	①改訂前	総人口	35.6	37.4	38.4	38.4	0.9	社人研H25推計の本市比率 ・合計特殊出生率1.3前後 ※社人研 次期推計は未定。 出生率はH25、H30より 低下の可能性あり。	[A]H22~[B]H27の本市動向 + 千里NTの開発動向
		(年少)	5.0	5.2	5.2	4.1	▲ 1.1		
		(生産)	23.5	23.6	23.9	22.2	▲ 1.5		
		(高齢)	7.0	8.6	9.3	12.1	3.5		
	②改訂案	総人口	35.6	37.4	38.6	38.8	1.4		
		(年少)	5.0	5.2	5.2	4.3	▲ 1.0		
		(生産)	23.5	23.6	24.2	22.6	▲ 1.0		
		(高齢)	7.0	8.6	9.2	11.9	3.4		
人口ビジョン ~R42 (2060)	①現行	総人口	35.6	36.4	36.4	34.8	▲ 1.6	社人研H25推計の本市比率 + 【想定シナリオ】 ・合計特殊出生率の向上 2030年： <u>1.8</u> 2040年： <u>2.07</u>	H17~[A]H22の動向 + 【想定シナリオ】 ・若年者の転出抑制 ・子育て世代の転入超過
		(年少)	5.0	4.9	4.8	5.1	0.2		
		(生産)	23.5	22.8	22.3	18.5	▲ 4.3		
		(高齢)	7.0	8.7	9.3	11.2	2.5		
	②2期案	総人口	35.6	37.4	38.6	39.1	1.7	社人研H30推計の本市比率 ・合計特殊出生率1.47前後	[B]H27~[C]R2の本市動向 特徴：若年女性の転入超過増 中高年齢層の転出超過増 + 千里NTの開発動向 (第4次総計の仮定値と同じ)
		(年少)	5.0	5.2	5.2	4.9	▲ 0.3		
		(生産)	23.5	23.6	24.2	23.0	▲ 0.7		
		(高齢)	7.0	8.6	9.2	11.2	2.6		

【参考1】新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響（吹田市の住民基本台帳ベース）

社会増減の推移



自然増減の推移

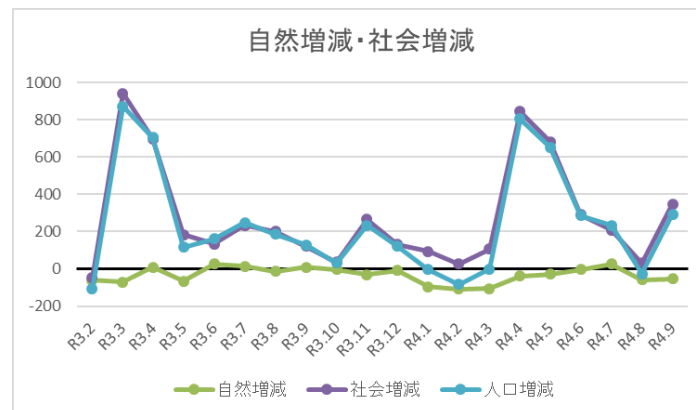
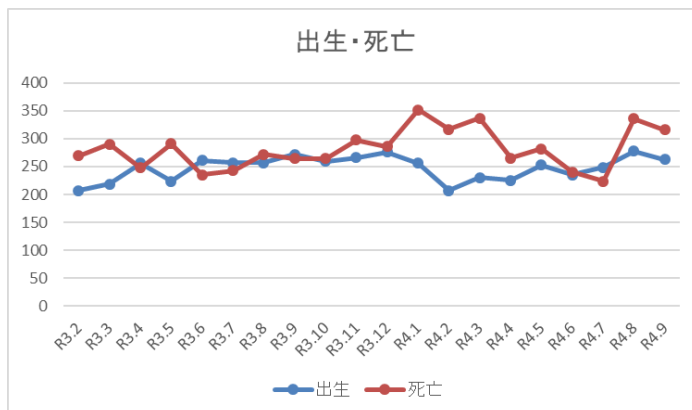


(資料) 平成23年までは住民基本台帳と外国人登録の合計 / 平成24年以降は住民基本台帳（外国人住民を含む）から作成（各年9月30日現在）

(注) 転入には、転出取消、職権記載等を含む。転出には、職権消除等を含む。

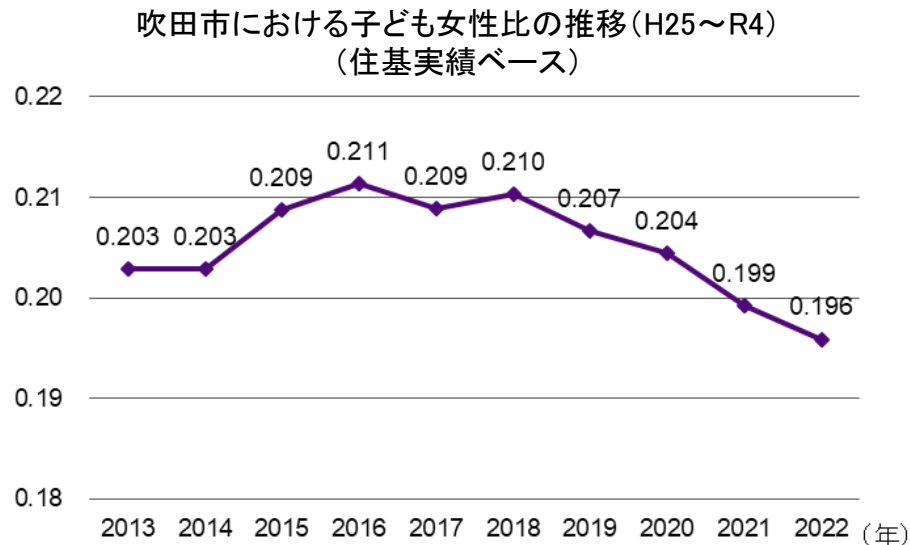
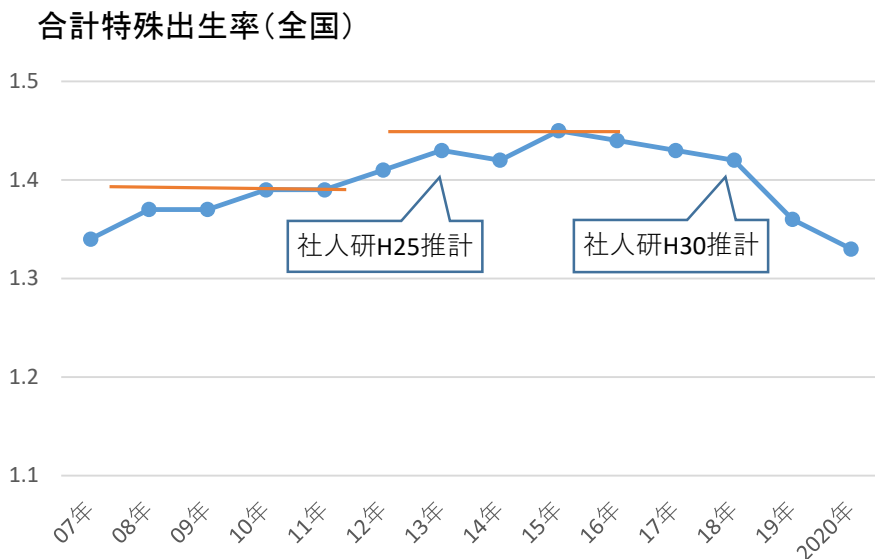
- ・**社会増減**については、H23以降は転入超過が続いているが、R2以降の新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響については不明。
- ・**自然増減**については、R1、R3は減少となっているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響かどうかは不明。
- ・合計特殊出生率についてはR1（2019）：1.30、R2（2020）：1.36、R3（2021）：1.31となっており、2016年以降減少傾向に転じているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による影響については不明。

【参考】 R3.2～R4.9の 月次ベース



【参考2】自然増減の仮定値（子ども女性比・合計特殊出生率）

- 1 社人研による次期地域別将来推計（令和5年（2023年）頃を予定）では、下方修正となる可能性が高いが、今回の改訂作業には間に合わない。



- 2 今回の改訂に際し、把握できる社人研による吹田市の仮定値としては、**H25**よりも**H30**の方が高い。
仮定値（子ども女性比を合計特殊出生率に換算） **H25：1.3前後** **H30：1.47前後**
- 3 人口推計の改訂案としては、1の状況も踏まえ、最新の**H30**ではなく、策定時と同じ**H25**の仮定値をそのまま使うこととする。

人口推計	H25 の仮定値	子ども女性比：0.18前後	合計特殊出生率：1.3前後
------	-----------------	---------------	---------------

- 4 人口ビジョンの2期案としては、**H25**に比べて高くなっている**H30**の仮定値を、コロナ禍後の回復への期待も込めて使うこととする。

人口ビジョン	H30 の仮定値	子ども女性比：0.2前後	合計特殊出生率：1.47前後
--------	-----------------	--------------	----------------

【参考3】社会増減の仮定値（純移動率）

- 1 年齢5歳階級別、世帯構成別で、H27とR2の人口増減を、R2推計人口（①改訂前）、R2実績値と比較すると、やや誤差が生じている。ただ、「想定より増」となった若年女性の転入超過が今後も続くかどうかは不確実である。（自然増減、社会増減の両方を含むが、年代から考えるとほぼ社会増減と考えられる）

＜誤差が大きかった年代の誤差率＞

想定より増	想定より減
25～29歳→30～34歳の女性 誤差率8.1% 推計時：6.19%増→実績：14.77%増	50～54歳→55～59歳の男性 誤差率-2.1% 推計時：1.59%増→実績：0.52%減
	60～64歳→65～69歳の男性 誤差率-2.0% 推計時：0.66%減→実績：2.5%減
	65～69歳→70～74歳の女性 誤差率-1.6% 推計時：0.67%増→実績：0.94%減

- 2 人口推計の改訂案としては、純移動率の仮定値は第4次総合計画の改訂前と同じとする。

人口推計	・H22～H27の本市動向 ・千里NTの開発動向
------	-----------------------------

- 3 人口ビジョンの2期案としては、H27からR2の本市動向を純移動率の仮定値として設定する。

人口ビジョン	・H27～R2の本市動向 ・千里NTの開発動向
--------	----------------------------